

膳所城遺跡発掘調査成果報告会（2013.11.10）



発掘！！膳所城北の丸
—平成24年度発掘調査成果より—

公益財団法人滋賀県文化財保護協会
調査普及課 副主幹 岩橋 隆浩

1

本日の内容

- ▶ 1. はじめに
 - ▶ 2. 膳所城の沿革
 - ▶ 3. 今回の発掘調査について
原因・場所・調査のねらいなど
 - ▶ 4. 調査の結果
見つかった遺構と遺物
 - ▶ 5. 調査成果のまとめ
●何がわかったのか？
- 2

2. 膳所城の沿革

- ▶ 関ヶ原合戦直後の慶長6年(1601)
徳川家康が築城(天下普請)
●西国大名の抑えのため
- ▶ 戸田一西(とだ かずあき)が入封
- ▶ 本多氏→菅沼氏→石川氏
- ▶ 慶安4年(1651)に再び本多氏が入封
- ▶ 明治3年(1870)に廃城

3

3. 今回の発掘調査について

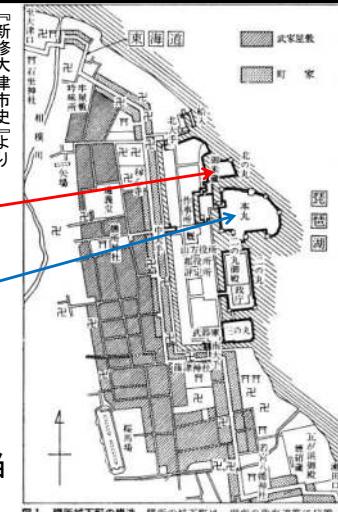
- ▶ 調査原因:近江大橋有料道路建設工事
- ▶ 調査期間:平成24年4月～5月
- ▶ 調査面積:271m²



どこを調査したのか？



調査地と 膳所城の構造



▶ 調査地は北の丸に相当

発掘調査のねらい

▶ 北の丸の構造を考古学的に明らかにする。

- ①北の丸の規模
- ②北の丸内部の構造
- ③時期的な変遷の有無
- ④廃城後の様子

7

4. 調査の結果



4-1 北の丸北端を検出 (調査区 1)

- ▶ 北端で約1.3~1.5mの段差を検出。
- ▶ 明確な石垣は未確認。
- ▶ 石垣裏込めと考えられる小石材を確認。
- ▶ 廃城後に石垣石材を転用するために除去。

9



北の丸北端 (調査区 1)



4-2 北の丸内部の状況を確認 (調査区 2・3)

- ▶ 石組溝2条を検出
- ▶ 西側: 石組溝1
- ▶ 東側: 石組溝2

11



石組溝 1 (調査区 2・3)

- ▶ 幅約1.5~0.5m
- ▶ 深さ約0.5m
- ▶ 埋土から遺物出土
- ▶ (17世紀前葉が中心)

12

石組みに使われていた石仏



石組溝2 (調査区3)

- ▶ 幅約0.3m
- ▶ 深さ約0.2m
- ▶ 規模からみて建物の雨落ち溝か?

13



新たに検出した石垣 (調査区3)

上段石垣



下段石垣

15

4-3 新たに石垣を検出 (調査区3)



14

4-4 たくさんの中瓦が出土した



三巴文軒丸瓦



立葵文軒丸瓦

出土した軒丸瓦



本多家の家紋(立葵)

16

出土した軒平瓦

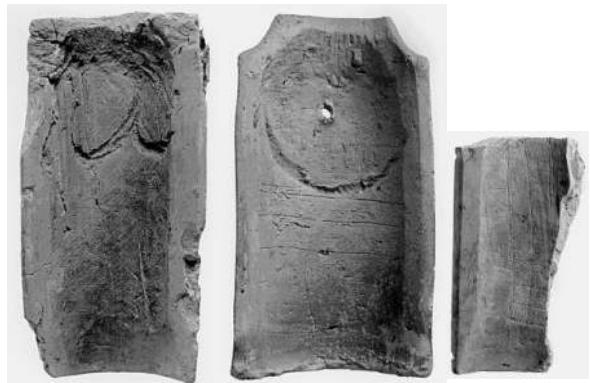


17

今も使われる
軒平瓦



出土した丸瓦

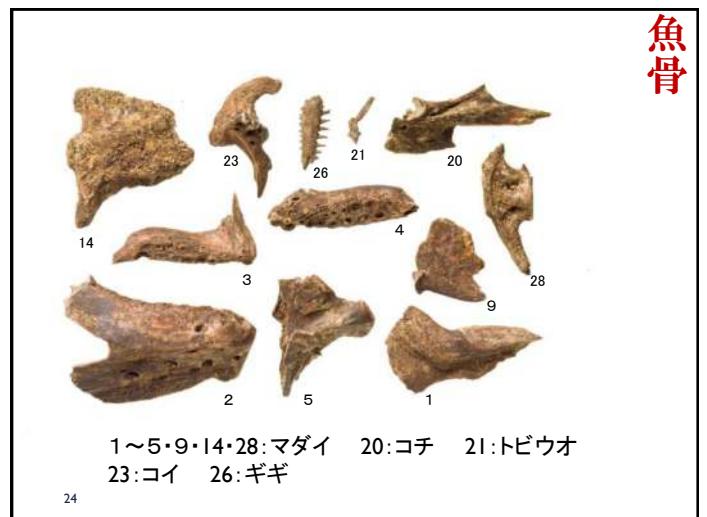


大津城から来た瓦
コビキAの瓦

膳所城のために焼かれた瓦
コビキBの瓦 布に縫製痕のある瓦

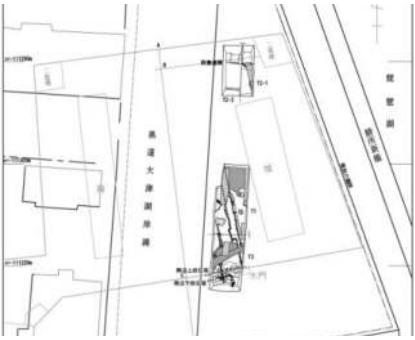
4-5 石組溝1から土器・陶磁器類がまとまって出土





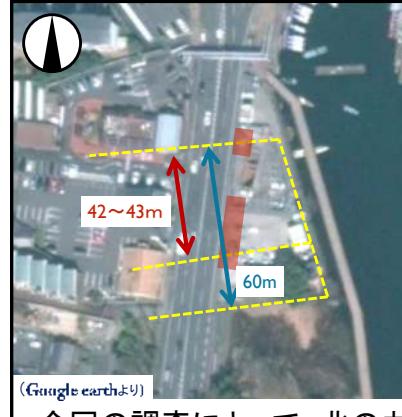
5. 調査成果のまとめ

5-1 北の丸の規模について



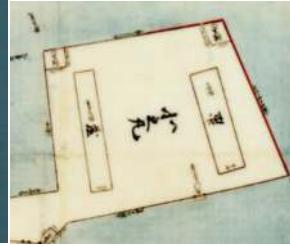
25

●北の丸の北端と南端を検出した



(Google earthより)

北の丸の 規模



26

▶今回の調査によって、北の丸の南北の規模がおよそ明らかとなった。●絵図では不明確。

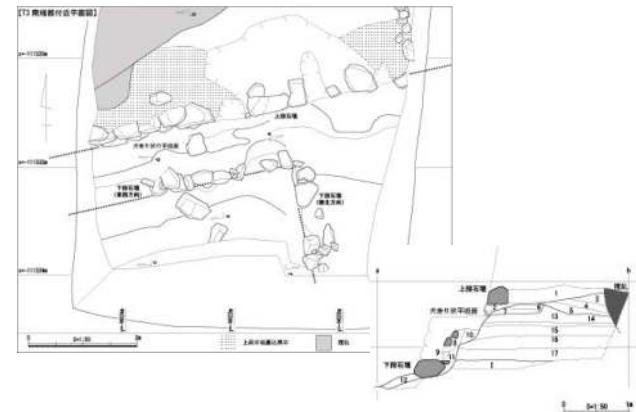
5-2 石垣の構造について



27

おそらく廃城まで使われていた石垣
●膳所城の石垣の構造を知る手がかり

石垣の構造（調査区 3）



28

5-3 北の丸の内部構造について



29

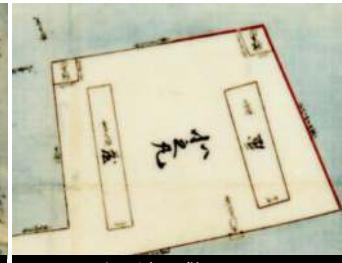
- 石組溝等を検出したことによって
■郭内部の区画や土地の利用方法を推察

北の丸の内部構造

- ▶ 石組溝2は絵図の「蔵」にともなう雨落ち溝の可能性あり。
- ▶ 石組溝1は絵図に記載なし。



30 膳所城之図(寛文以前)



膳所城屋敷見取図

5-4 まとまって出土した遺物が示すこと



- 建物等の性格や時期、北の丸内での活動(郭の普請など)を推測する手がかり。→土器や瓦
■城内の食生活を推測する手がかり→貝や魚骨

31

廃城後のさまざまな開発で、お城の痕跡は残っていないのでは?との思いもありましたが、小さな調査面積にも関わらず、さまざまな調査成果が得られました。

これらの調査成果が、膳所の歴史を考えるための礎(いしづえ)となれば、幸いです。

32



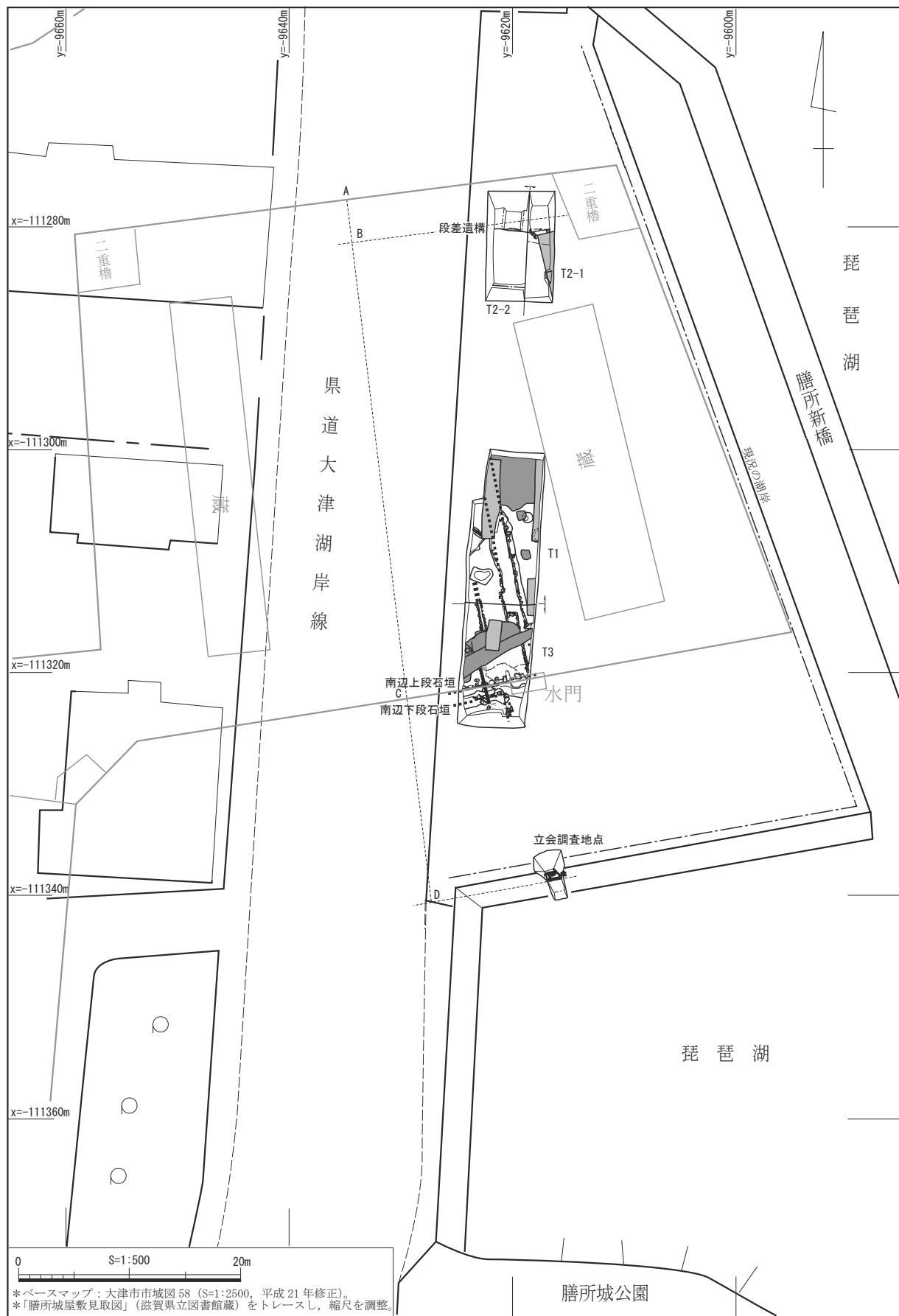
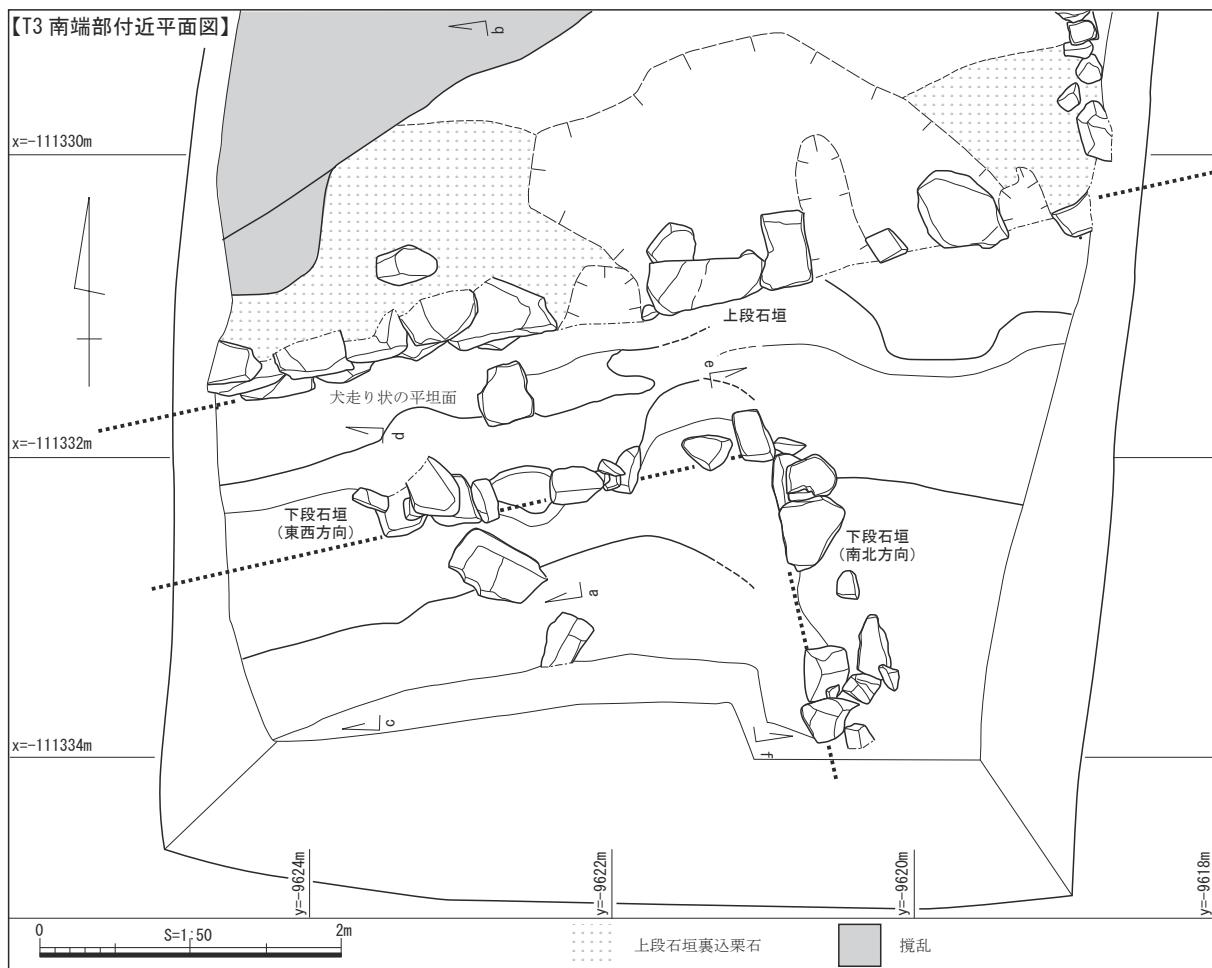


図 6-2 絵図から想定される北の丸と検出遺構



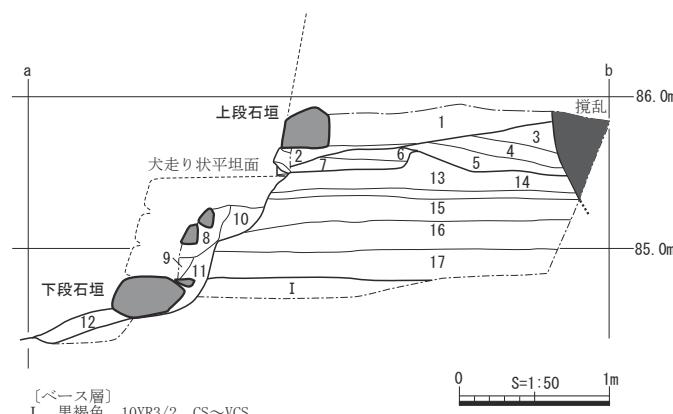
【上・下段石垣直交方向の土層断面】

〔上段石垣修復にともなう層群〕
1 裏込栗石 明黄褐色 10YR7/6 VFS~CLY
+径10~20cmの亜角礫
2 石材据付基礎土 黄灰色 2.5Y4/1 MS~CS

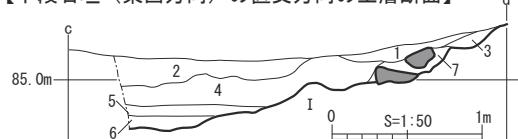
〔上段石垣にともなう層群〕
3 関灰色 10YR4/1 MS~CS
4 関灰色 10YR3/2 MS~CS
5 黄灰色 2.5Y4/1 MS~CS
6 黒褐色 2.5Y3/2 MS~CS
7 オリーブ褐色 2.5V4/3 MS~CS

〔下段石垣にともなう層群〕
8 裏込土 淡黄橙色 10YR8/4 VFS~SLT
9 裏込土 黒褐色 10YR3/2 MS~CS
10 裏込土 黄灰色 2.5Y5/1 FP
11 裏込土 黑褐色 10YR2/2 MS~CS
12 化粧土 淡黄橙色 10YR8/4 VFS

〔北の丸造成にともなう層群〕
13 初期の裏込土 黒褐色 2.5Y3/2 MS~CS
14 暗赤褐色 5YR3/2 MS~CS 鉄分沈着顕著
15 関灰色 10YR4/1 MS~CS
16 暗オリーブ灰色 5GY3/1 CS~VFP
17 黒褐色 2.5Y3/1 CS~VFP



【下段石垣（東西方向）の直交方向の土層断面】



〔下段石垣前面の堆積土〕
1 明赤褐色 5YR5/6 MS
2 関灰色 10YR4/1 MS~CS (2~3mm細礫含む)
3 赤褐色 5YR4/6 CS~MS
4 黄橙色 10YR4/1 MS~CS (2~3mm細礫含む)
5 明褐色 7.5YR5/8 SLT
6 灰色 N4/0 MS~CS
7 灰黄褐色 10YR6/2 MS~CS

〔ベース層〕 I 関灰色 7.5YR6/1 CS

〔下段石垣前面の堆積土〕
1 関灰色 5YR6/1 CS (転石:栗石含む)
2 灰褐色 5YR6/2 CS (灰白色粘土ブロック含む)
3 関灰色 7.5YR6/1 CS (粘土ブロック含む)
4 関灰色 7.5YR6/2 CS (粘土ブロック含む)

〔ベース層〕 I 関灰色 7.5YR6/1 CS

図 5-8 T3 南辺石垣関連図 (2)